



子どもと家族のニーズに適応したストーマ教育

小児科に勤務する医療従事者は、患者さん（子ども）と子どもの家族という2つの対象者のニーズに対応しなければなりません。この2つの対象者が持つニーズへの対応は簡単ではありません。特にそれがストーマケア教育であればなおさらです。両方の対象者に効果的な支援をするには、子どもと家族それぞれに適応する教育方法を考えていく必要があります。

今回、小児ストーマケアのベストプラクティスに関するガイドライン¹をもとに、ストーマケアの専門家は子どもと家族のニーズに対しどのように寄り添いながらストーマケア教育を行えばよいのか、その方法についてご紹介します。

ストーマケア教育の計画を立てる

ストーマケア教育を成功させる鍵は、優れた計画を立案することにあります。まずは子どもの状態と治療方針に精通している必要があります。また、家族の状況を把握することも大切です。多くの場合、医療従事者は家族とその子どもにとってまったく新しい情報を提供することになります。これらの新しい情報をどこまで受け入れることができるかは、聞く側の心の状態に大きく関係しています。ショックを受けていたり、拒否感が強い時は、まだ新しい知識を受け入れ、経験したことのないスキルを身につけようとする心構えはできていません。だからこそ、家族と子どもが学ぶ準備

が整っているかということに注意深く観察することが大切です。

以下の内容を考慮し、ストーマケア教育を少しずつ進めることで、教育効果を高めることができます。

- 子どもの発達段階と年齢
- 学習に関連する認知的、身体的・精神的・社会的な問題の有無

「小児のストーマケア：新生児、幼児、児童に対する国際的なベストプラクティス（Paediatric stoma care: Global best practice guidelines for neonates, children and teenagers）」をご紹介します。

小児のストーマケアはまだエビデンスが少ない分野であり、文献や研究報告があまりありません。この分野の詳しい情報を提供するため、小児ストーマケア専門家の国際的なグループである世界小児ストーマ認定看護師諮問会議（Global Paediatric Stoma Nurses Advisory Board、GPSNAB）が医療従事者向けの国際的なガイドラインを作成しました。このガイドラインは、ストーマ造設の必要性やストーマ造設術による精神的影響への対処まで、小児のストーマケアのあらゆる領域を網羅しています。ガイドラインは [Coloplast Professional](#) に掲載されています。

ストーマケア教育内容

ストーマ教育の内容は、現在の治療方針の経過によって異なります。例えば、術前に教育する内容は、術後や退院後に行うものと異なります。

¹ Paediatric stoma care: Global best practice guidelines for neonates, children and teenagers, published in December 2018

術後に教育する内容について詳しく見ていきましょう²。

- 装具交換が必要なタイミングについて2つ挙げてみてください。

ストーマを実際に見たり触ったりする

術後のストーマケア教育の一番最初のステップは、親と（年齢に応じて）子どもの両方にストーマを見せ、触れさせることです。痛いものではないことを理解させることが重要です。

また、指導内容を退院後も復習できるように、資料を提供しておきましょう。



ストーマ袋の排出口の開封と便排除

親に指導する際は、排出口の開封や便排除の方法など、簡単な作業から始めます。焦らずに、時間に余裕を持って進めていくことが大切です。最初は、医療従事者自身が人形を使って実演し、次に子どもの体でやってみせてから、その後に見守りながら親に行ってもらおうと良いでしょう。子どもが退院する前に、親や子どものどちらか、あるいはその両方がこういった基本的な方法を習得する必要があります。

前述の通り、効果的なストーマ教育の鍵となる要素の一つは、子どもの年齢を考慮しながら教育内容を計画することです。小児のストーマケアにおける年齢別の教育内容についてご紹介します。

「乳児期から就学前、学齢期、思春期、若年成人期まで、発達段階に応じて、ストーマケアに関する個別的な配慮が必要です」

ストーマと周囲皮膚のスキンケア

術後のストーマケア教育では、スキンケアの方法についても指導する必要があります。ここでは、ストーマ周囲の健康的な皮膚の特徴と、合併症が発生した時にどのように対処すべきかを子どもと親に指導します。具体的には、以下の点を十分理解してもらうことが大切です。

子どもへの指導のポイント

たとえ小さい子どもでも、自分のストーマケアに参加することが可能です。自分のストーマケアに参加させることで、自分の事として捉え、自信を感じてもらえることが大切です。ストーマケアを怖いものとして感じさせるのではなく、最初は遊びのような感覚を持ってのように指導してみましょう。

- ストーマ周囲の皮膚を清潔にする方法
- 皮膚に水分が残っていないか確認する方法
- 合併症発生時の臨床徴候の観察と評価の方法

1. 子どもを参加させる

子どもに簡単なケア方法をさせてみて、自分も参加していると感じてもらいましょう。例えば、子どもに、ストーマ用品を集めてもらったり、剥離紙にストーマのサイズを書いてもらうのも良いでしょう。また、ストーマ装具を貼付する時に、ストーマ装具を持ってもらうこともできます。

ストーマ製品の選択

子どもと親が選択できるように、その子どもに合ういくつかのメーカーの製品を用意しておきましょう。アクセサリーに関する情報も提供します。ただし、小児のストーマケアにおけるベストプラクティスは、アレルギー反応を避けるため、使用する製品を可能な限り少なくする必要があるということをお忘れなくください。

2. 子どもの想像力を活用する

多くの場合、子どもは豊かな想像力を持っています。これを利用して、ストーマのことを伝えてみましょう。例えば、ストーマを付けたマスコットを使って、ストーマ装具からの排出をやってみせることができます。ロールプレイも装具交換について教える際の良い方法になります。塗り絵を利用して学校に持っていかなければならないものを教えたり、絵を使って臓器の場所を見つけやすくすることができます。ストーマを使用している子どもについての物語を読み聞かせたり、話したりしても良いでしょう。

ストーマケア教育内容の最終確認

親と子どもにとっては、覚えなければならない沢山の情報が提供されたこととなります。ストーマケア教育を終了する前に、指導した内容を最後にもう一度確認してください。親と子どもが指導内容を理解したかどうかを確認する機会になります。例えば次のようなまとめの質問をしてみましょう。

- お子さんのストーマはどんな種類でしたか？
- ストーマ装具にたまった排泄物はいつ排出したらよいのでしょうか？

² 術前、退院前、退院後の教育セッションで何を扱ったらよいかについての詳細は、小児ガイドライン完全版のセクションB、第2章を参照してください。

ストーマケア教育を成功させるポイント

3. 自分の気持ちを表現させる

自分の気持ちを言葉で伝えるのが難しい子どももいます。指人形や人形、絵などを使って、子どもの気持ちを引き出してみましょう。

4. 同じ立場の人々からの教えを活用する

子どもや親がストーマを保有している他の子どもや家族と顔を合わせる機会をつくってみましょう。これは子供と親の双方にメリットがあります。子どもたちは自分と同じ状況にある子どもがいることを実際に目にし、親は互いの経験を交換し、他者の話に耳を傾け、これまででどんなことがあったかを学ぶことができます。これは不安を軽減し、自分たちだけではないことに気づく機会になります。また、現在の状況への対処にいろいろな方法があることを知る機会になるかもしれません。その際には、ストーマを保有する子どもが生活に適応することができるという、前向きな姿勢を示す家族や子どもを選びましょう。

思春期の子ども達に指導するポイント

1. プライバシーを尊重する

思春期の子ども達に指導する時は、まず、親を同席させずに本人と話すことがとても重要です。思春期の子どもの場合、通常は親と話し合ったり見せたりしない身体の一部について、あまり話したがるらないことが少なくないからです。親が同席していると態度が変わったり、自分の本当の気持ちを話しません。本人と1対1で話し、子どもの自立心を認め、この年代の若者が自分の一部としてストーマを受け入れやすいようにすることが大切です。

2. 同じ立場の人々からの教えを活用する

幼児の場合と同様に、思春期の子どもも自分の年齢でストーマを保有している人々の出会いは重要です。他の人のストーマを見たり、身につける服や日々の活動、楽しんでいるスポーツについて話すことができるからです。ストーマケア教育の一環としてこういった情報が提供されますが、同じ状況にある人達からの話はより信頼感の高いものになります。

内容	理由
十分な時間を確保すること	十分な時間を確保しておけば、個人の学習スタイルに合わせて学習方法を調整することができます。
学習への準備と悲嘆の段階をアセスメントすること	学ぶ準備が整っているか、教育したい内容を理解できる状況にあるかを把握することができます。
子どもの年齢と発達段階を考慮すること	指導方法の指針となるだけでなく、子どもが理解できる言葉や説明内容を工夫するようにします。
子どもに自らケアに参加するよう働きかけること	自立と適応を促すことができます。
教材を使用すること	子どもの発達段階や年齢、理解度に合わせて教育内容を工夫できます。
子どもや親をストーマを保有している他の子ども達や家族に紹介すること	ストーマを保有する生活を理解し、他者の経験から学びを得ることができます。
思春期の子ども達への教育は親への指導の前に行うこと	自分のケアにおける責任感を持つと同時に、自主性を尊重することができます。

前述の通り、小児のストーマ教育は難しいものです。それでも、十分な準備と年齢に応じた教育内容や方法を用いることで、親や子どもがストーマを保有した生活に適応できるようになります。

小児のストーマケアや教育に関する実践的なヒントやガイドラインは、「小児のストーマケア：新生児、幼児、児童に対する国際的ベストプラクティス (Paediatric stoma care: Global best practice guidelines for neonates, children and teenagers)」をご参照ください。[Coloplast Professional](#) からダウンロードできます。